

NEWS LETTER

15時00分解禁

平成29年8月 全国百貨店売上高概況

平成29年9月21日

I. 概況

1. 売上高総額	4, 127億円余
2. 前年同月比	2.0% (店舗数調整後/2か月ぶりプラス)
3. 調査対象百貨店	80社 227店 (平成29年7月対比-2店)
4. 総店舗面積	5,707,992㎡ (前年同月比:-4.3%)
5. 総従業員数	71,985人 (前年同月比:-4.7%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	1-3月 -1.2%、2-4月 -0.6%、3-5月 -0.1%、 4-6月 0.7%、5-7月 -0.1%、6-8月 0.5%

[参考] 平成28年8月の売上高増減率は-6.0% (店舗数調整後)

【特徴】

8月の売上高は2.0%増と2か月ぶりにプラスに転じた。

富裕層やインバウンドの需要の強さから高額商材が引き続き活況であった他、気温低下で晩夏・初秋物を中心に衣料品が堅調に推移し、ほぼ前年並み(0.1%減)にまで復調した。その結果、中期トレンドを示す3か月移動平均値も0.5%増と再び上昇傾向を示している。

顧客別では、インバウンド(シェア5.2%)が215億円(70.2%増)と過去4番目の売上高を記録すると共に、一人あたり購入単価も約2割増(6.7万円)と引き続き高伸。一方、国内市場(シェア94.8%)もほぼ前年並み(0.2%減)にまで回復している。

地区別では、大都市(10都市)が増勢基調を背景に7都市で前年実績を上回り、合計3.5%増と2か月ぶりにプラス転換した。半面、地方(10都市以外の地区/1.4%減)は前月に比べ減少幅を2.4ポイント縮めたものの、前年には届かず4か月連続のマイナスとなった。

商品別では、主要5品目の内、化粧品(19.5%増)と高額商材(美術・宝飾・貴金属:9.9%増)が好調な雑貨が、合計11.2%増と二桁の伸びを示し9か月連続でプラス。ラグジュアリーブランドを含む身のまわり品も3.5%増と2か月ぶりにプラスとなった。復調傾向の衣料品は、紳士服が3.4%増と13か月ぶりのプラス、子供服も1.2%増と2か月ぶりにプラス転換した他、婦人服もほぼ前年並み(0.3%減)となった。食料品は菓子・惣菜・その他食料品が前年をクリアしたものの、不漁不作等の影響から生鮮食品(2.1%減)が振るわず、合計で0.2%減と前年には僅かに届かなかった。家庭用品は9.1%減と苦戦が続いている。

なお、夏休み期間に展開したファミリー催事等各種集客施策は入店客数の増加に繋がった。

【要因】

- (1) 天候：気象庁発表「8月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇西日本では晴れて気温が高い日が多かったが、北・東日本太平洋側では曇りや雨の日が多い不順な天候で日照時間がかなり少なく、北日本太平洋側では気温の低い日が多かった。北・東・西日本では大気の状態が不安定となる時期があり各地で大雨となった。東日本日本海側では、台風第5号の影響を受け、月降水量がかなり多かった。

- (2) 営業日数増減 30.6日(前年同月比 ±0日)

- (3) 土・日・祝日の合計 9日(// ±0日)

- (4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数128店舗)

①増加した:59店、②変化なし:33店、③減少した:36店

- (5) 8月歳時記(夏休み、お盆)の売上(同上/有効回答数92店舗)

①増加した:22店、②変化なし:57店、③減少した:13店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2017年08月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
全 国	412,766,765	100.0	2.0 (0.9)
10都市	286,271,188	69.4	3.5 (3.3)
札幌	11,854,799	2.9	8.0
仙台	5,249,204	1.3	6.7 (-1.8)
東京	109,043,499	26.4	3.6
横浜	24,786,805	6.0	1.6
名古屋	25,334,102	6.1	-0.9
京都	17,143,110	4.2	-1.7
大阪	57,394,021	13.9	8.6
神戸	11,272,972	2.7	0.7
広島	9,183,411	2.2	-1.9
福岡	15,009,265	3.6	3.0
10都市以外の地区	126,495,577	30.6	-1.4 (-4.3)
北海道	1,258,395	0.3	-8.7 (-48.7)
東北	6,725,066	1.6	1.0
関東	55,593,393	13.5	2.0 (-3.1)
中部	9,947,669	2.4	-1.5
近畿	17,389,861	4.2	-9.7
中国	9,456,212	2.3	-0.6
四国	6,284,871	1.5	-1.3
九州	19,840,110	4.8	-3.2

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
総 額	412,766,765	100.0	2.0 (0.9)
紳士服・洋品	20,609,646	5.0	3.4 (2.2)
婦人服・洋品	71,325,076	17.3	-0.3 (-1.5)
子供服・洋品	8,110,839	2.0	1.2 (0.3)
その他衣料品	9,095,128	2.2	-7.1 (-8.6)
衣 料 品	109,140,689	26.4	-0.1 (-1.3)
身のまわり品	54,590,242	13.2	3.5 (2.2)
化粧品	39,759,079	9.6	19.5 (18.5)
美術・宝飾・貴金属	25,874,972	6.3	9.9 (8.5)
その他雑貨	17,198,521	4.2	-2.8 (-3.6)
雑 貨	82,832,572	20.1	11.2 (10.1)
家 具	4,607,490	1.1	-13.1 (-14.0)
家 電	823,603	0.2	-44.0 (-44.1)
その他家庭用品	12,574,623	3.0	-3.5 (-4.7)
家 庭 用 品	18,005,716	4.4	-9.1 (-10.1)
生 鮮 食 品	23,570,094	5.7	-2.1 (-3.1)
菓 子	35,428,615	8.6	0.3 (-0.6)
惣 菜	27,763,779	6.7	0.3 (-0.2)
その他食料品	32,070,961	7.8	0.2 (-0.9)
食 料 品	118,833,449	28.8	-0.2 (-1.1)
食 堂 喫 茶	14,900,791	3.6	-0.2 (-1.1)
サ ー ビ ス	5,073,701	1.2	-5.3 (-7.2)
そ の 他	9,389,605	2.3	1.8 (1.4)
商 品 券	9,267,071	2.2	-1.4 (-2.1)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 3.5% (店舗数調整後／2か月ぶりプラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -1.4% (店舗数調整後／4か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	3.5	2.4	2か月ぶりプラス
札幌	8.0	0.2	8か月連続プラス
仙台	6.7	0.1	3か月連続プラス
東京	3.6	0.9	2か月ぶりプラス
横浜	1.6	0.1	2か月ぶりプラス
名古屋	-0.9	-0.1	2か月連続マイナス
京都	-1.7	-0.1	2か月連続マイナス
大阪	8.6	1.1	8か月連続プラス
神戸	0.7	0.0	4か月ぶりプラス
広島	-1.9	0.0	11か月連続マイナス
福岡	3.0	0.1	2か月ぶりプラス
10都市以外の地区	-1.4	-0.4	4か月連続マイナス
北海道	-8.7	0.0	11か月連続マイナス*
東北	1.0	0.0	2か月ぶりプラス*
関東	2.0	0.3	2か月ぶりプラス
中部	-1.5	0.0	3か月連続マイナス
近畿	-9.7	-0.5	6か月連続マイナス
中国	-0.6	0.0	4か月連続マイナス*
四国	-1.3	0.0	4か月連続マイナス
九州	-3.2	-0.2	3か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が9か月連続、身のまわり品が2か月ぶりのプラスとなった。また、衣料品が22か月連続、家庭用品が20か月連続、食料品が3か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が29か月連続、美術・宝飾・貴金属が5か月連続、子供服・洋品、菓子、惣菜が2か月ぶり、その他食料品が6か月ぶり、紳士服・洋品が13か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	2.0	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	3.4	0.2	13か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-0.3	-0.1	22か月連続マイナス
子供服・洋品	1.2	0.0	2か月ぶりプラス
その他衣料品	-7.1	-0.2	22か月連続マイナス
衣料品	-0.1	0.0	22か月連続マイナス
身のまわり品	3.5	0.5	2か月ぶりプラス
化粧品	19.5	1.6	29か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	9.9	0.6	5か月連続プラス*
その他雑貨	-2.8	-0.1	4か月連続マイナス*
雑貨	11.2	2.1	9か月連続プラス
家具	-13.1	-0.2	2か月ぶりマイナス
家電	-44.0	-0.2	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-3.5	-0.1	17か月連続マイナス
家庭用品	-9.1	-0.4	20か月連続マイナス
生鮮食品	-2.1	-0.1	41か月連続マイナス*
菓子	0.3	0.0	2か月ぶりプラス*
惣菜	0.3	0.0	2か月ぶりプラス*
その他食料品	0.2	0.0	6か月ぶりプラス*
食料品	-0.2	-0.1	3か月連続マイナス
食堂喫茶	-0.2	0.0	4か月連続マイナス
サービス	-5.3	-0.1	2か月連続マイナス
その他	1.8	0.0	4か月連続プラス
商品券	-1.4	0.0	78か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

NEWS LETTER

平成29年8月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年9月21日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 090億円余
2. 前年同月比	3.6% (2か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭4.6%(89.0%) : 非店頭-4.1%(11.0%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年7月対比±0店)
5. 総店舗面積	843,284㎡ (前年同月比:-4.5%)
6. 総従業員数	18,265人 (前年同月比:-3.9%)
7. 3か月移動平均値	1-3月 -1.5%、2-4月 -1.3%、3-5月 -0.7%、 4-6月 -0.2%、5-7月 -0.3%、6-8月 1.0%

[参考] 平成28年8月の売上高増減率は-5.9%

【特 徴】

- (1) 東京地区の入店客数は5.0%増と全国水準を上回る賑わいを見せた。記録的な低温多雨の影響で、遠出の行楽地から近場のレジャー施設に振り替える傾向もあり、各社が趣向を凝らして展開した、アニメ・キャラクターイベント、写真展・物産展や組織顧客向け催事など各種施策には想定以上の反応があった。
- (2) 商品別では、衣料品が3.3%増と22か月ぶりにプラス転換した。売場の部分改装による新規需要喚起もあった他、秋物商品のスタイル提案が好評だった。特に、プロパー商品の動きがよく、婦人服・洋品は22か月ぶりのプラス(1.9%増)で、秋色夏素材の羽織もの等端境商品が好調だった。また、紳士服では特選スーツ、イージーオーダー等高価格帯商品が動き8.9%増と大幅にプラスした。
- (3) 富裕層やインバウンドの市場規模の大きさを背景に、雑貨が全国より3.2ポイント高い14.4%と9か月連続でプラス。引き続き、国内外共に好調な化粧品(23.8%増)と高級腕時計等を中心とした高額商材(美術・宝飾・貴金属:13.3%増)が牽引した。身のまわり品もラグジュアリーブランド等が好調で4.9%増と高い伸びを示した。
- (4) 一方、一部前年外商大口受注の反動等もあり家庭用品が苦戦した他、天候不順で季節商材である日傘・サングラス等のUV関連商品やスポーツ用品も不調であった。また、生鮮食品は不漁不作による価格高騰の影響で4.5%減となった。
- (5) 9月中間段階の商況は、8.2%(9/18)で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 30.5日 (前年同月比 +0.1日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 14店、②変化なし: 2店、③減少した: 3店
- (3) 8月歳時記(夏休み、お盆)の売上 (同上/有効回答数11店舗)
①増加した: 5店、②変化なし: 5店、③減少した: 1店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年08月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	109,043,499	100.0	3.6
紳士服・洋品	7,286,037	6.7	8.9
婦人服・洋品	16,664,284	15.3	1.9
子供服・洋品	1,889,674	1.7	7.4
その他衣料品	2,087,842	1.9	-6.4
衣 料 品	27,927,837	25.6	3.3
身のまわり品	16,246,557	14.9	4.9
化粧品	12,224,081	11.2	23.8
美術・宝飾・貴金属	8,278,145	7.6	13.3
その他雑貨	5,103,954	4.7	-1.8
雑 貨	25,606,180	23.5	14.4
家 具	1,268,795	1.2	-30.6
家 電	540,723	0.5	-39.3
その他家庭用品	3,190,316	2.9	-8.5
家 庭 用 品	4,999,834	4.6	-19.4
生 鮮 食 品	4,006,313	3.7	-4.5
菓 子	7,782,408	7.1	0.0
惣 菜	6,108,004	5.6	0.0
その他食料品	7,700,082	7.1	2.2
食 料 品	25,596,807	23.5	-0.1
食 堂 喫 茶	3,278,096	3.0	1.4
サ ー ビ ス	2,066,032	1.9	-12.0
そ の 他	3,322,156	3.0	11.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	1,810,036 千円	0.3
従 業 員 数	18,265 人	-3.9
店 舗 面 積	843,284 m ²	-4.5

営 業 日 数	30.5 日	前年	30.4 日
---------	--------	----	--------

NEWS LETTER

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が9か月連続、衣料品が22か月ぶり、身のまわり品が13か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が12か月連続、食料品が2か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が29か月連続、美術・宝飾・貴金属が4か月連続、子供服・洋品、その他食料品が2か月ぶり、紳士服・洋品が7か月ぶり、惣菜が14か月ぶり、婦人服・洋品が22か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	3.6	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	8.9	0.6	7か月ぶりプラス
婦人服・洋品	1.9	0.3	22か月ぶりプラス
子供服・洋品	7.4	0.1	2か月ぶりプラス
その他衣料品	-6.4	-0.1	4か月連続マイナス
衣料品	3.3	0.8	22か月ぶりプラス
身のまわり品	4.9	0.7	13か月ぶりプラス
化粧品	23.8	2.2	29か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	13.3	0.9	4か月連続プラス*
その他雑貨	-1.8	-0.1	4か月連続マイナス*
雑貨	14.4	3.1	9か月連続プラス
家具	-30.6	-0.5	2か月ぶりマイナス
家電	-39.3	-0.3	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-8.5	-0.3	5か月連続マイナス
家庭用品	-19.4	-1.1	12か月連続マイナス
生鮮食品	-4.5	-0.2	18か月連続マイナス*
菓子	-0.0	0.0	2か月連続マイナス*
惣菜	+0.0	0.0	14か月ぶりプラス*
その他食料品	2.2	0.2	2か月ぶりプラス*
食料品	-0.1	0.0	2か月連続マイナス
食堂喫茶	1.4	0.0	7か月ぶりプラス
サービス	-12.0	-0.3	2か月連続マイナス
その他	11.7	0.3	2か月ぶりプラス
商品券	0.3	0.0	7か月ぶりプラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>